

おうちの
みんなで
読んでね

報恩講を迎えて

親鸞聖人は法然上人の念仏往生の教えを継承され、「アミダ仏」の本願を信じ念仏を称える人は、浄土に生まれて悟りを得るという教えを説かれました。「真実信心獲得の人」とは、念仏者一人ひとりに問われる課題です。

「報恩講」とは、念仏を私にまで届けてくださった仏法の歴史に「ありがとう」と感謝し、そのご縁を因として生まれた念仏申す人々による讃仏の時間と空間です。それはこの娑婆世界（堪忍の土）を生きる私が、大きな願いに支えられて歩んでいることを確認する法要であります。

このことからしても、念仏申すとは私の力ではなく、様々な関係により、私を念仏申すものにしてくださっているご縁の力です。

それは亡き母であり、亡き父であり、善き人であり、悪しき人であり、私か関わる全ての出来事です。それらの人と出来事が、私に真実を知らせるご縁となって、私をして念仏せしよと作用しているのです。ご和讃が説くように、

南無阿弥陀仏を となうれば
十方無量の 諸仏は
百重千重（ひやくじゅうせんじゅう）
圍繞（いにゅう）して
よろこびまもり たもうなり

と、自己中心的な分別心を絶対化して止まぬ私に、「百重千重圍繞して」まで真実の世界を知らせようと働かれています。

私の努力・能力・知恵・才覚・財産ではありません。どこまでも私に願いをかけている仏の本願力であります。（孝雄）

ホントカナ
とー
ありがたいと
いったら
どこかで鬼めが
セセラ笑った
ホントカナ
とー

虚仮不実（こけふじつ）
ナニを やつても
ナニを いても
ナニを おもっても
みんなスカタン
虚仮不実
（木村無相「念仏詩抄」）

熊本生まれ、波乱の真剣な求道の生涯を経て旧武生市にて昭和60年、80歳で命終された念仏詩人。短い詩でこうもバツサリ突かれると逃げ場もなく胸に残る。「私の全てが嘘である」と言っただけのけるくらい、我が身もお育ていただけるだろうか。

煩は

身そわすらわす

悩は

心そわすらわす

◆ 日常よく使われる言葉ですが、親鸞聖人は文字を使い分け分析して、それぞれの意味を示されます(分釈)。この文意は、身と心は切り離して考えられないということ。他の著述にも多用されています。

聖人は「無明、煩惱われらが身にみちみちて、欲もおほく、瞋り腹だちそねみねたむ心多く間(ひま)なくして、臨終の一念に至るまで、とどまらずきえず、

たえず(一念多念文意)」と言い、貪りと怒りの心が限りなく深く、いつまでも体にまとわりつき、諸行無常という世の中の道理に暗い無明(愚痴)に命を支配されているのが我々人間だと説かれました。

聖人の師である法然聖人は「煩惱をば心のまら(客)人とし、念仏をば心の主人としつれば、あながちに往生をばさえぬ也」という言葉を遺されました。「煩惱(自分の心)を人生のお客さんとし、念仏(阿弥陀様のお心)を人生のご主人として生きていくならば、間違はなくお浄土が待つ、豊かな人生を歩むことになるでしょう」との意味です。

つまり、自己中心的な「自分の思い通りにしないと気が済まない」という心に操作されてしまったら、必ず「思い通りにならない世界」を生み出し、それによって自分の身が様々な苦悩や愚痴にはまり込みます。

一方、心の主客が転倒され、阿弥陀様の「あなたが浄土に生まれたいようなら私も仏にはならない」という大慈悲心こそ、本当に尊い働きとして委ねていく。祖師方の教えのように、自分の思いから解放する仏様の願いを、この身が生きられるでしょうか。(引用「心に響く言葉」他)

教えて、お坊さん ①⑥

実はある“宗教”の勉強会に興味があるんですが..。

もしそれが特定のいくつか教団だったらご注意を申し上げたい。いわゆる新興宗教の中で、立正佼成会や天理教、近年の生長の家など、他宗派に対しても寛容で社会的活動(平和や災害支援、環境など)も地道に取り組まれている教団であれば、ご縁に従って色々学べたらそれでいいだろう。ただしN宗やS会などの強引さ、閉鎖性はしばしば噂にも聞くと、知人からも家族のことで相談を受けたことがある。

あるいは災いごとを軽くすると言って勧誘したり、会社の上司や仕事上の付き合いでやむなく関わったら土日もなくなるような活動にはまり込んでしまったなどの例もある。特定の拠点や集まりに通うことや、占いや霊能力の類もそうだが、もしそこに傾倒して家族関係が損なわれたり、ご当家の御本尊をないがしろにしては本末転倒だ。気をつけるべき点は、「神秘体験」「金銭」「権力」「恐怖心」「排他性」「孤立」「依存」という体質だ。

オウム真理教もしくはその後継団体のように、若者の(というか時代の)心の闇に入り込み、気づかないうちに洗脳されてしまうような、あるいは古今東西のテロリズムなどどうしても宗教には狂信的な部分を含んでいる。しかし本物の宗教は、自分のエゴを満足させるものではなく、そのエゴを打ち砕き、人間のサガを問い続けるものである。宗教の価値判断をどこかで身につけて行きたいものだ。(参考「大法輪」第71巻7月号)

四年ぶりの東北行き～仙台、岩手・陸前高田 その2

6月末の被災地再訪、二泊三日の一人旅。陸前高田市の続編です。

・今回のメインの一つ、広田半島の奥「森の小舎」へ。砂利の小道を進んだどん詰まりの森の中にある。TV で見た通りの赤いポスト、様々な小物雑貨類や手作りのベンチや椅子などさりげなく置いてあり、これだけでいい感じのスペースだ。

マスターは赤川さんという初老の男性。人当たりがよく話がこなれているのは、都会からの移住者というのが頷ける（奥様の実家は何と鯖江市）。ご自身のお話もすごく面白いが、互いに聞いたり話したりの間合いが何とも絶妙。気持ちよい。

もともと自分の趣味で建て始めた小屋だったが、震災があってからなぜか人が訪ねてくるようになった。そのうちコーヒーとか出して話を聞くようになり、思いついて昔の丸型ポストを借りて置くようにした。そうすると亡き人宛てへの手紙が届くようになり、それを保管し、可能なものは閲覧できるようにした。

他人の眼もあるので、奥に小さい小屋を別に建てて、そこで音楽も用意したり心置き無く閲覧できるようにした。その小屋を出てくると、大抵はベンチに座ってしばし空を見上げる――亡き人の面影を空に追うのか、人生のあれこれを偲ぶのか。

新聞やTV 特集でも紹介され、手紙は（「陸前高田 漂流ポスト」という宛名だけで）全国から届く。絶対に返事の来ない手紙。繰り返し書く人もいる。震災で亡くなった方より、それ以外の方のケースの方が実は多い。

実際にここを訪ねて手紙を出しに来る人もいて、例えば駐車場で車を降りて目を真っ赤に泣きはらした女性が真っ先にポストに駆け寄り、子供の名前を呼びながらポストをさするような、近頃はここの存在意味が少しずつ多様になってきている。ある男性は例の小屋に2時間半も籠って、あとで話を伺うと本人は病気で余命宣告を受けているという。それでいずれ遺されてゆく家族がどんなことを思うのか知りたくてここに来たなど...

デリケートでヘビーなテーマだが不思議と息苦しさは感じない。まるで森の奥を進んで、ここだけあちらの世界につながる、聖なる回路が開かれているような空間である。宗教家や寺社が果たすべき機能の一つあることは間違いないが、人々は見も知らぬ他人に遠慮な



く思いを託し、手間暇かけてこの地を訪れ、清々しい森の樹々に包まれながら、何の気兼ねもなく自分と亡き人の世界に没入することができる。寺檀制度や行事仏事に囲われるような一般の宗教施設とは別次元の宗教性が人々の中で求められているのかもしれない。

・プレハブの市役所のすぐ隣、栃が沢公営団地。大きな二棟の真ん中に広い駐車場と集会所。仮設から移って約2年の岩崎民代さん（88歳）を訪ねる。4年ぶりの再会がとても嬉しい。

お一人住まいの部屋はリビングに和室など。かつては市役所近くの市街地の屋敷にお住まいだったので、知人が持っていたお部屋での写真がかろうじて昔を偲ぶ。改めて、当たり前にあった記録や思い出が突然失われてしまうことの現実が迫ってくる。



調度品などは中古が多いそうだが、もうこれでいいんだと欲をかかない。お体は狭窄症があって、立ち座りが以前から少ししんどくなっておられるが、ご本人はあっけらかんとして明るい。会話も全くストレスなくレスポンスされるのもお変りなく、本当にすごい。

広田水産高校のボートが漂流して、アメリカ西海岸カリフォルニア州の町に流れ着いたご縁で、向こうの高校生らが陸前高田を親善訪問された昨年、お茶のおもてなしをお茶会グループの講師として指導された。いずれまたお訪ねできる機会を楽しみに～。（了）

福島子どもサマーキャンプ in 禅林寺&西養寺 2018 終了！

◆今年も、保護者の方1名を含む18名の参加者が来られ、100名近いボランティアスタッフとともに、無事7泊8日の日程を終了することができました。カンパや物資提供など、多くの方々にご支援いただき、感謝申し上げます。想定外の台風でも新しく磯遊びを体験したり、地区夏祭りの代りに本堂内でミニコーナーを出して盛り上がりました。

また、4年前の参加者で高校3年になった女子が今回初めてスタッフ参加してくれました。こちらは大変助かり、そして彼女たちもとても良い経験になったようです。

彼女たちや保護者の方の何気ない言葉に、いわき市など福島で続いている原発事故の底知れぬ影響を感じます。夏休みのわずかな体験ですが、こうして福井の大人たちとの絆が少しでも結ばれ、子どもたちの生きる力の一つになってくれたらと願っています。



↑本願寺新報からも取材に来られる

最終夜の記念写真大会↓

